

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教科	社会（歴史的分野）
----	-----------

発行者 の番号 ・略称	教科書 の記号 ・番号	教科書名	調査結果の概要
2 東 書	歴史 705	新しい社会 歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に充実した内容になっている。 ・資料や写真が豊富であり、使いたい資料が多数掲載されているので資料集を購入しなくても十分に学習ができるようになっている。 ・「D マーク」や QR コードがあり ICT を活用した学習ができるような工夫がなされている。 ・「みんなでチャレンジ」で課題と方法が示されており対話的な学習ができるような工夫がなされている。 ・各章のまとめの活動において、様々な方法が示され、学びを深める工夫があり、思考力・判断力・表現力を高めができる。また、「見方・考え方」「集める」「考える」など、主体的に取り組める工夫がなされている。 ・基礎基本のまとめを毎回行うことで学習内容の定着が図りやすくなっている。 ・日本の歴史と世界の歴史のつながりがわかりやすい構成になっている。(P260) ・巻末の年表が見やすい。 ・中学1, 2年で学習する内容が増えており、3年生への積み残しが多くなると思われる。(P74, 75 モンゴル帝国とユーラシア大陸など) ・対華二十一か条の要求 (P214) の扱いで第一次世界大戦中の出来事なので、ベルサイユ条約の学習前に扱った方がわかりやすい。 ・徳川慶福と慶喜の跡継ぎ問題を本文に載せても混乱すると思われる。(P164)

<p>17 教出</p>	<p>歴史 706</p>	<p>中学社会 歴史 未来をひらく</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文記述、資料共によく、生徒も教師も学びやすく使いやすい内容になっている。 ・資料や写真が豊富であり、使いたい資料が多数掲載されているので資料集を購入しなくても十分に学習ができるようになっている。 ・資料・写真ともにデジタル処理がされており大きくて見やすく、内容も適切である。 ・「学びリンク」があり ICT を活用した学習ができるような工夫がなされている。 ・各ページのタイトルに興味を持たせる工夫がされており、主体的に学ぼうとするきっかけになる。 ・各ページの「確認」「表現」の内容が的確であり言語活動の充実や思考力が高まることが期待できる。 ・一單元ごとに工夫された問いがあり文章の量も実際の授業の時間配分が考えられている。 ・5W1H で見方・考え方を捉えさせるのは良いと思われる。また、相手に簡潔に説明できる力が身につけられる。 ・教科書に書きこめたり、「歴史の技」のコーナーで班活動ができたりするところが良い。 ・「歴史の窓」のコーナーでは、生徒の関心・意欲を高める工夫がみられる。 ・沖縄（琉球）・北海道（アイヌ）の人権について幅広く対応している。（P122, 123） ・天正遣欧使節について（P107）説明があるのは生徒にとって興味が持ちやすい。 ・個人で深める内容が多く、対話的な内容については見劣りする。 ・巻末年表は、情報が多く見づらい。 ・内容の充実さゆえに、生徒が深く学ぶには量が多すぎる。 ・單元ごとのテーマがわかりにくく、授業をするときに十分に活用しづらい。 ・下級武士という表現がわかりにくい。（P163） ・渋染め一揆の意義が一般的な一揆とは異なるものであることがわかりづらい。（P137）
------------------	---------------	---------------------------	---

<p>46 帝国</p>	<p>歴史 707</p>	<p>社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文・資料ともに精査されており、無駄な部分が見当たらない。また、資料に発問をつけるなど資料活用や興味関心を引き出す構成になっており使いやすい。 ・「多面的・多角的に考えてみよう」、「技能を磨く」は、内容が少し難しいが、課題として取り組める。 ・各章はじめの「タイムトラベル」はいずれもよく描かれており、発問も興味深い。また、QRコードで資料にリンクされていることで投影もしやすく使いやすい。 ・「確認しよう。説明しよう」があり言語活動を通して対話的な学習として活用できる。 ・各章の振り返りは、ステップを踏むことで「思考力・判断力・表現力」がつくように構成されている。 ・人物紹介がちりばめられており、単なる暗記にとどまらず興味深い。 ・新しい資料が多く、文化の章の資料の大きさ、多さがとてもわかりやすい。 ・奈良時代前の律令国家を目指している単元としての流れがよい。(P38,39) ・縄文文化と弥生文化の比較は見やすくわかりやすい。(P24,25) ・太宰府周辺 (P38) の絵はわかりやすく描かれている。「大王」から「天皇」という言葉に変わったことが大きめにかつ明確に書かれている。 ・難しい語句には「解説」(P60)、誤解しやすい語句にはこれは「人物」(P61) のことであるといったことを表記する配慮がなされている。 ・解放令が出されたことと具体策が取られなかったこと、それに反対する人々が多々いたことなどがしっかりと書かれている。(P171) ・環境・人権についての情報が多く掲載されている。 ・見やすくするために空けたスペースに語句の補足や人物紹介をする等の工夫があるとよい。 ・本文見開きの右端に縦の年表がついており、わかりづらい。 ・巻末の年表は、情報量が多すぎて見にくい。
------------------	---------------	-----------------------------------	---

<p>81 山 川</p>	<p>歴史 708</p>	<p>中学歴史 日本と世界</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や写真が豊富であるが、内容が詳しく文章量が多い。 ・本文見開きの2ページはタイトル下に学習課題を提示しており、学習の見通しが立てやすい。 ・「地域からのアプローチ」は、地域の歴史をさまざまな角度から取り上げており興味関心を高め、思考力・表現力を養うことができる。 ・要所で発問の付箋紙があり、主体的に考える手引きとして活用ができる。 ・「用語解説」が詳しく書かれており、授業の中で活用しやすい。 ・人物についての資料が興味深く書かれおり、歴史に関心が持ちやすい。 ・庚寅年籍（P39）のような難しい用語や情報量が多く、生徒にはわかりづらい。 ・弥生時代の村の様子では、指導者の役割に触れていない。（P30） ・個人で深める内容が多く、対話的内容が少ない。また、言語活動より知識重視のイメージが先行しているように感じられる。 ・細かい内容が多く、もっと短くわかりやすい内容が良い。章末のまとめも書かせるだけのものが多く生徒が関心を持ちにくい。 ・文字が小さく、行間が狭く、圧迫感がある。 ・言葉遣いが「である調」であるため、難しく感じさせる。 ・カタカナでの表記が中学生にとってわかりづらい。 例) ルーズヴェルト大統領 ヴァイマル憲法 ヴェルサイユ条約等 ・日本の植民地（P200）や日中戦争（P240）の説明がフラットな視点ではないように感じる。 ・3ページで1単元の内容もあり、1時間の授業で終わらないように感じる。 ・統計資料が少ない。 ・歴史の流れを示す年表が大きく取り上げられておらず、時代の大きな変化や日本史と世界史の関係性等が理解しにくい。
-------------------	---------------	-------------------	--

<p>116 目 文</p>	<p>歴史 709</p>	<p>中学社会 歴史的分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や写真が豊富で、大きく取り上げられている。また、グラフや図がカラフルで見やすい。 ・QRコードがあり ICT を活用した学習ができるような工夫がなされている。 ・章の始まりには、大きな写真や地図が載っており、学習の意欲につながる。 ・全体を通してよくまとまっている。一方で一単位の量が多く精選しなければ消化できない。 ・チャレンジ歴史・アクティビティ・先人に学ぶなど多くのテーマがあり、生徒が主体的に学べる工夫がみられる。 ・「チャレンジ歴史」は発展的な内容であり、イラストや資料でとりかかりやすい工夫がされており、班活動に役立つものである。 ・姫路城の特集があり、歴史上の人物・出来事との関係性を知ることができる。また、地域と密接していることから、生徒が意欲的に取り組めると思われる。(P124) ・本文見開きの2ページは「学習課題」の下に「見方・考え方」が示されているので課題解決の手掛かりになっている。また、最後は確認だけでなく「深めよう」の問いも設定されており思考力・判断力・表現力を高めることにつながる。 ・「確認」の項目で、学んだ内容を説明することで表現力を育て、言語活動の定着を図ることができる。 ・「記録写真を読み取ろう」の写真はどれも生徒に深く考えさせることができる内容である。(P220,221) ・本文右端の年表が見つらく、活用しにくい。 ・学習課題が小さく、見づらい。 ・国分寺(P49)の写真があるが、説明内容が少ない。 ・大仏造営について記載が必要。 ・元寇についての記述が少ない反面、資料が多く掲載されており、4ページにわたっている。(P82) ・見開きで終わらないページもあり、1時間の授業として活用しづらい面がある。
--------------------	---------------	-------------------	---

<p>227 育鵬社</p>	<p>歴史 710</p>	<p>[最新] 新しい日本の歴史</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章量が多く、グラフや図がカラフルで見やすい。 ・各章の初めにある「歴史絵巻」のページやその次の資料のページは、学習内容への興味・関心を高め、生徒の学習意欲を高める工夫がある。また、時代の特色もわかりやすい。 ・「学習のまとめ」はワーク形式で、重要語句を確認することもできる。 ・「歴史のターニングポイント」はディベートのような取り組みや歴史博物館をデザインさせるなど主体的に取り組める内容となっている。 ・「人物クローズアップ」など人物の紹介が豊富で、人物像がわかりやすいが、取り上げている人物がやや多い。 ・言語活動を行うための工夫や考えるための資料が少なく、学習内容を深めることが難しい。 ・詳細な語句が多く、大観したとらえ方になっていない。 ・写真や資料の色合いが薄く、はっきりとした資料が少ない。 ・P201の13行目からの説明が生徒にとって非常に難しい内容に感じる。 ・関東大震災の時にデマによって朝鮮人が殺害されたことに触れられていない。(P229) ・個人で深める内容が多く、対話的な学習ができるような工夫が少ない。 ・人権に対する内容が非常に薄い。 ・見出しが小さく、わかりにくい。(P128「綱吉の文治」「政治」 P220「第一次世界」「大戦」等)
--------------------	---------------	----------------------	---